

街を行く

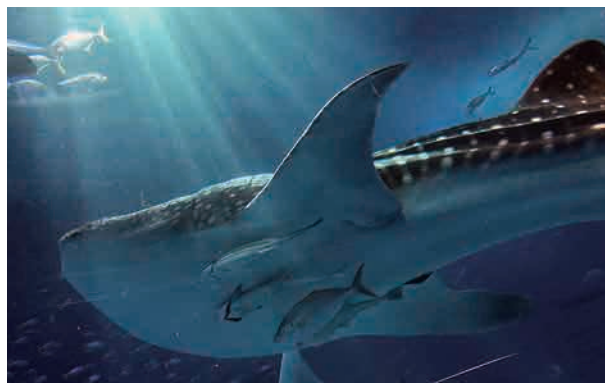
第89回 沖縄・美ら海 Okinawa Cyuraumi

リゾートとしての位置づけは？

沖縄の街は以前那覇を取り上げたことがありましたが、あれから時間が経ち様子も大分変わりました。いま「観光立国」の名のもとリゾート再整備が進む最たるエリアが沖縄です。激戦地であった過去や基地問題の現在を踏まえると、その位置づけを単純に捉えるべきでないですが、経済的繁栄を前提に考えれば「観光地としての絶対的なポジションを示す」ことが大事だと思います。

さて、いつもは仕事で那覇に、今回は“リゾートを楽しみ”に「美ら海水族館」へ行ってきました。小生は水族館が大好きで、世界中の著名どころを網羅しています。でも、なぜか美ら海だけは機会がありませんでした。

ここに来て最初に驚くのは、中身の凄さよりも来館客の多さでしょう。多くは中国、台湾、韓国からのように思います。属性は家族連れがほとんどですが、中には老年夫婦の団体も見かけます。国は違えど、お目当ては水族館の目玉である「ジンベイザメ」です。360°を見渡せる巨大水槽を大きな体でゆったりと泳いでいる姿は、不敵なまでに堂々としています。恥ずかしながら小生、多くの子供たちをかき分け、小一時間も水槽の前に張り付いていました。自分で感心するほどジンベイザメ好きなので、大阪「海遊館」でみて以来、久しぶりだったからかも知れません。しかし、こんな巨大な鯨の飼育はさぞかし大変だと思います。最新鋭のITやAIでも及ばない繊細な心配り（数学の範疇ではなく国語ですね）が必要なはずで、それこそ飼育の極意であり、日



美ら海水族館と、その主役とも言えるジンベイザメ

本がグローバルの中で優位に立てる世界一の部分だと思います。観光立国を掲げるわが国にとって、この心配りは最大の武器ではないでしょうか。その一方で、労働力の確保は今後多くのリゾート開発が進むなか、さらに切実・深刻な問題となっていくでしょう。もう一つ、沖縄のリゾートの課題はアクセスです。リゾートに大切なのは、そこへ到着するまでの間、“いかにリゾート感を醸し出せるか”にあります。「海洋博公園」周辺のプロジェクトは、政府肝いりで進められた経緯から独特の世界観を滲ませています。乱立するホテルプロジェクトがそれぞれの世界観を作り出すために、全体の絵の中で何を担っているのか。その存在を明確にしなければ、好き勝手にバラバラなりゾート乱立島になってしまいます。良い

意味で、開発を進めるためのルール決めは絶対に必要ですね。

個人的な話をすると、花粉症の症状が全くでないこの大きな街は、この季節には長く滞在したい街でもあります。それがゆえに、わくわくするリゾートがもっと登場してきてほしいですね。めんそーれ！

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。